

6 高齢者の生活環境

(1) 高齢者の住まい

ア 高齢者の9割は現在の住居に満足しており、体が弱っても自宅に留まりたい人が多い

60歳以上の高齢者に現在の住宅の満足度について聞いてみると、「満足」又は「ある程度満足」している人は総数で89.3%、持家で91.2%、賃貸住宅で69.9%となっている（図1-2-6-1）。

さらに、同調査で現在住んでいる住宅について不満な点を見ると、不満の理由は「住宅が古くなったりいたんだりしている」が16.8%、以下、「庭の手入れが大変」が10.5%、「住宅の構造や設備が使いにくい」が7.0%となっているが、「特に不満はない」が61.4%となっている。

60歳以上の高齢者が身体が虚弱化したときに望む居住形態についてみてみると、「自宅に留まりたい」（「現在のまま、自宅に留まりたい」と「改築の上、自宅に留まりたい」の合計）とする人が日本では約3分の2となっているが、韓国、アメリカ、ドイツ、スウェーデンと比較すると、スウェーデンに次いで低い数字となっている。また、自宅に留まりたい人の中でも

「改築の上」で留まりたいとする人の割合は、日本は韓国に次いで低いが、5年前と比較するとやや上昇している（図1-2-6-2）。

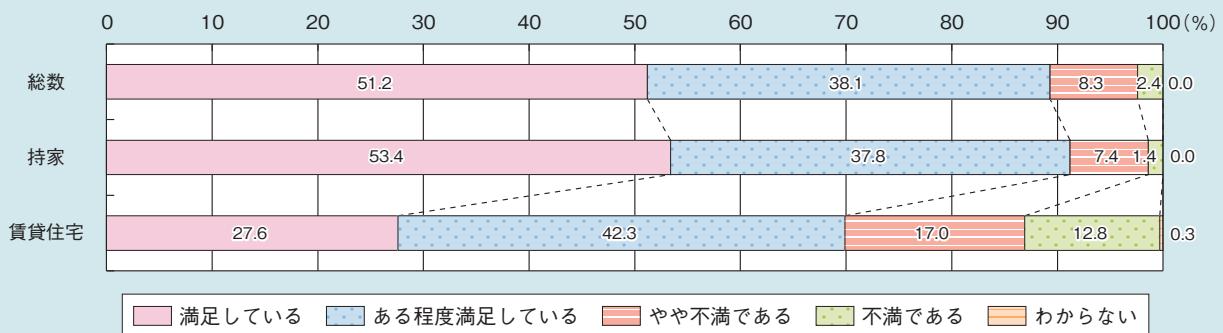
イ 高齢者は家庭内事故が多く、最も多い事故時の場所は「居室」

国民生活センターに医療機関ネットワーク事業の参画医療機関から提供された事故情報によると、65歳以上高齢者の方が20歳以上65歳未満の人より住宅内での事故発生の割合が高く、65歳以上高齢者の事故時の場所にみると、「居室」45.0%、「階段」18.7%、「台所・食堂」17.0%が多い（図1-2-6-3）。

(2) 高齢者の居住環境

60歳以上の人々が地域で不便に思っていることをみてみると、平成22（2010）年では、不便な点が「特にない」という人が約6割（60.3%）であるが、不便に感じている事柄としては、「日常の買い物に不便」（17.1%）が最も多く、次いで「医院や病院への通院に不便」（12.5%）、「交通機関が高齢者には使いにくい、または整備されていない」（11.7%）となっている（図1-2-6-4）。

図1-2-6-1 現在の住居に関する満足度



資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成21年）
（注1）対象は、全国60歳以上の男女